

# 新たな北海道総合開発計画の概要

国土交通省 北海道局  
平成28年7月



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

## 北海道総合開発計画の位置付け



- 北海道開発法第2条に基づき国が策定（閣議決定）。
- 新たな計画が平成28年3月29日に閣議決定。  
（計画期間：2016年度～2025年度）

### 新たな計画の意義

- 北海道開発の基本的意義：北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献。
- 本格的な人口減少時代にあっても活力を失うことなく人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の先駆的形成を図る。

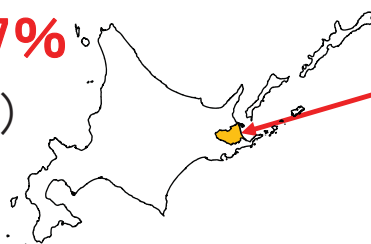
平成27年	1月30日	第15回北海道開発分科会(諮問) (分科会長:奥野 信宏)
	2月~7月	計画部会を5回開催 (部会長:大内 全)
	8月31日	第16回北海道開発分科会(中間整理)
	10月~11月	計画部会を2回開催
平成28年	1月20日	第17回北海道開発分科会(計画素案) パブリックコメント
	3月10日	第18回北海道開発分科会
	3月23日	答申
	3月29日	閣議決定

**【地域からの意見聴取】**  
 (H27春・秋) 全道9都市で「北海道価値創造パートナーシップ会議」を開催。  
 地域づくりに携わる方々から意見聴取。  
 (H27秋) 道内全市町村や商工会議所・商工会から意見聴取。

## 北海道の「強み」

### ◎北海道は我が国の食料供給基地

食料自給率: **197%**  
 (全国39%) (H25)



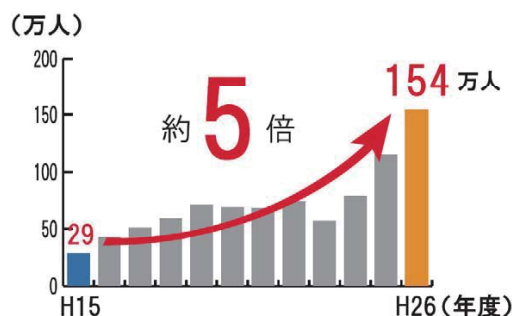
**【例: 別海町】**  
 •東京23区の2倍の面積  
 •人口1.6万人  
 → 500万人分の生乳を生産

### ◎食の輸出、外国人観光客も急増

食料品輸出額(北海道):7年で3倍に

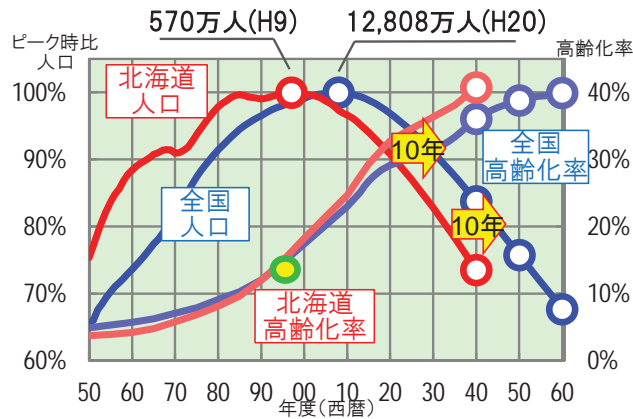


来道外国人旅行者数:11年で5倍に

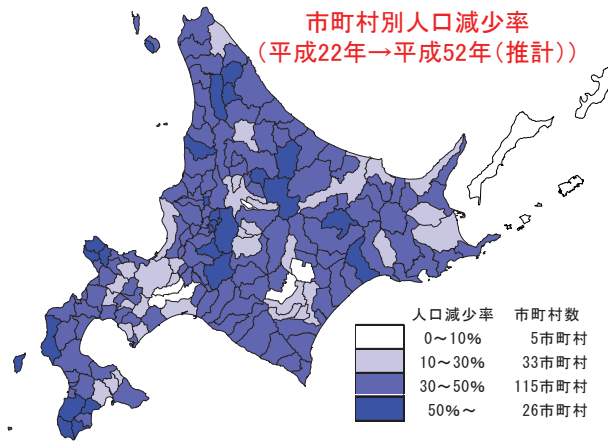


## ◎北海道の人口減少は全国よりも10年先に進展

全国よりも10年先んじて  
人口減少が進展



2040年には8割の  
市町村で3割以上減少



## ◎本州等とは距離感の異なる広域分散型社会

# 新たな計画のポイント

### これからの北海道の戦略

**「食」「観光」が戦略的産業**

～人口減少時代にあっても、

- ①北海道には世界と競争し得るポテンシャル
- ②アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う  
**「生産空間」**を支え**「世界の北海道」**を目指す

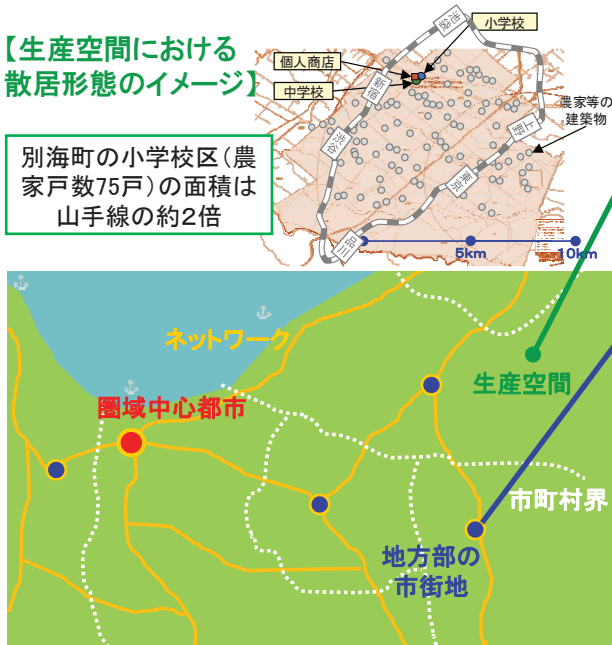
### 次の10年の重点的取組

- ①**「生産空間」**を支えるため、**重層的な機能分担と交通ネットワーク強化**
- ② **農林水産業の競争力・付加価値向上**／世界水準の魅力ある**観光地域**づくり
- ③ **地域づくり人材**の発掘・育成

○本格的な人口減少社会に「生産空間」に住み続けられる環境を維持・創出するため、3層による都市機能・生活機能の重層的な機能分担と交通ネットワークの強化を推進。

【生産空間における散居形態のイメージ】

別海町の小学校区（農家戸数75戸）の面積は山手線の約2倍



## ▼生産空間

農林水産業、観光等を担う地域



機能分担・ネットワーク連携

## ▼地方部の市街地

一定程度の生活サービス機能を提供



機能分担・ネットワーク連携

## ▼圏域中心都市

医療、教育・文化、商業等の都市機能・生活機能を提供



北海道版コンパクト+ネットワーク

## イノベーションによる農林水産業の振興

- 農地の大区画化
- 営農の組織化（法人化等）
- スマート農業（ICT、ロボット技術の活用）
- 新たな木材製品や優良品種の開発、普及
- 衛生管理対策やHACCP取得
- 養殖・栽培漁業の普及 等



## 「食」の付加価値向上

- 農業界と経済界が連携し、道外からの食品企業の誘致を促進

### 【「食」の総合拠点づくり】



## 物流基盤の整備による競争力の強化

- 国際バルク戦略港湾（釧路港）等の整備
- 高規格幹線道路等の整備 等

北海道からの食の輸出を増加させ、  
農林水産品等の輸出額1兆円目標達成に貢献

## 世界水準の観光地の形成

- 広域的な観光周遊ルート形成
  - 食、歴史・文化等の地域資源の発掘
  - スポーツツーリズム等観光メニューの創出・拡充
  - 北海道ドライブ観光パス社会実験

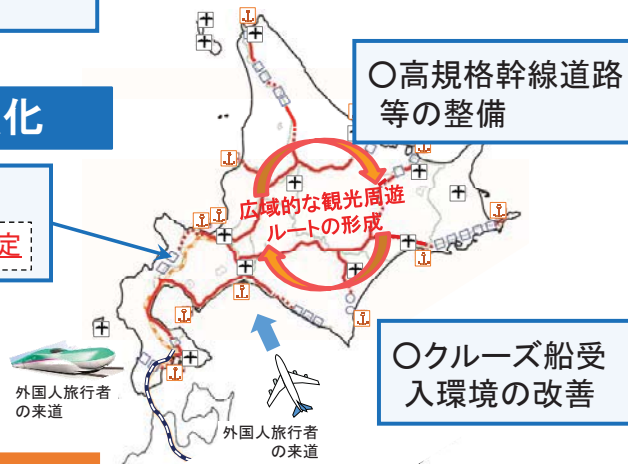


世界から評価されるニセコエリア

## 外国人観光客の受入体制の強化

- 北海道新幹線の整備
  - 新函館北斗・札幌間 2030(平成42)年度末完成予定

- 新千歳空港の機能強化等
  - 誘導路新設、CIQ施設の拡張等
  - 複数空港の一体的な運営の推進等



**外国人来道者を増加させ、訪日外国人4000万人目標達成に貢献**

- 人口減少時代にあっては、「人」こそが資源。
- 北海道の「価値創造力」を強化するため、「北海道価値創造パートナーシップ活動」を展開。

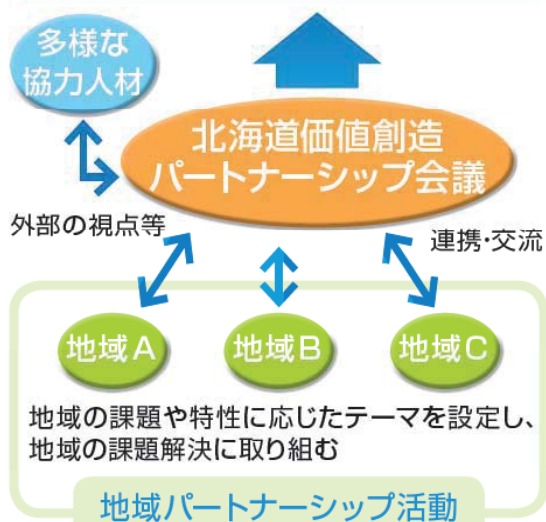
## 北海道価値創造パートナーシップ活動

- 各地域の課題や個性に応じたテーマに沿って、地域をサポート
- 道内外の人材交流の場づくり
- 優良な取組の評価・普及



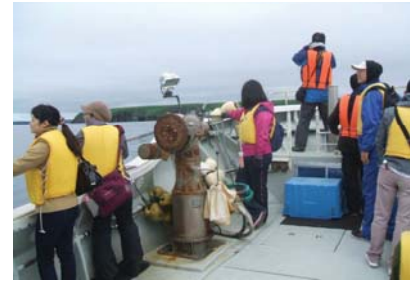
北海道価値創造パートナーシップ会議

## 北海道の新たな世界水準の価値を創造



## 北方領土隣接地域の振興等

○基幹産業の付加価値向上、新たな観光メニュー創造等の取組を推進。



ネイチャークルーズ(根室市)

## アイヌ文化の振興等

○2020年一般公開予定の「民族共生象徴空間」(白老町)の整備を推進。  
**年間来場者数100万人を目指す。**  
 ○民族共生象徴空間を含めたアイヌ関連の全道的ネットワークを構築。



**イランカラプテ**

「こんにちは」からはじめよう。

アイヌ文化普及啓発に関する取組

「イランカラプテ」

キャンペーンロゴマーク

# 強靱で持続可能な国土の形成①

## 持続可能な地域社会の形成

○北海道の豊かな**自然環境**を将来に**継承**。  
 ○**水素等の利用**を通じて**豊富な再生可能エネルギー源**のポテンシャルを活用。

### 【北海道局・北海道開発局の取組】

北海道水素地域づくりPF(～平成31年度頃まで)、北海道開発計画調査 等

### 北海道総合開発計画における「水素」に関する記載内容

#### 1. 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

##### ①環境と経済・社会の持続可能性の確保

○自然共生社会の形成 ○循環型社会の形成

○低炭素社会の形成

・再生可能エネルギーの利用拡大 ・**水素技術等のグリーン・イノベーションの促進**

・建築物を含む社会インフラの省エネルギー性能の向上 等

##### ②環境負荷の少ないエネルギー需給構造の実現

○再生可能エネルギーの更なる導入に向けた取組

・北海道内の送電網の強化、地域間連系線(北本連系線)の活用等の促進

・地域のバイオマス等を活用した地域分散型エネルギーシステムの導入の促進

・**水素による余剰電力の貯蔵・利用の促進等を図るため、産学官民金連携のプラットフォームによる普及啓発を推進** 等

○暖房用熱源や自動車燃料等北海道の地域特性を踏まえた取組

・寒冷地用ヒートポンプや熱電併給の普及促進 ・住宅・建築物に係る省エネ・省CO<sub>2</sub>対策の促進

・次世代自動車(**燃料電池自動車**等)の普及促進 ・**再エネ水素ステーション**・充電ステーション等の**整備促進** 等



燃料電池自動車

## 安全・安心な社会基盤の形成

- 激甚化・多様化する災害に対応し、人命の保護を最大限図る。
- 大規模災害時のバックアップ機能発揮を通じ、我が国全体に貢献。

ハード・ソフト一体となった豪雨・土砂災害への対応



リエゾンの派遣



サンルダム(完成イメージ)

冬期災害への対応



冬期複合災害への対応



立ち往生車両の移動

行政、地域経済界、金融機関、大学等の研究機関、NPO、地域住民など、多様な主体が連携・協働しながら、取組を推進



## 世界水準の価値創造空間の形成

(特有の歴史・風土を持つ北海道が個性を最大限発揮し、対流促進型国土の形成に資する)

